

待合室

発行 医療法人啓友会 (〒569-1029 大阪府高槻市安岡寺町2丁目3番1号)

なかじま診療所

072(687)7561

啓友クリニック

072(689)3251

うの花訪問看護ステーション072(688)7564

老人保健施設洛西けいゆうの里

075(333)5290

No.127 2013年/夏号

- ◆暑い夏の出会いと別れ 中嶋啓子
- ◆作品展示会報告 猪岡孝洋
- ◆けいゆうの里便り
- 「介護老人保健施設とは」 百々道男
- 13周年記念講演の感想 原田亜紀
- ◆おひな祭り会報告 長谷川勝弘
- ◆追悼 入江勝さん 古本喜子
中嶋久矩
辻 博司
- ◆観桜俳句選 選評 田中久子先生

(表紙『かぼちゃ』中林 基)



かぼちゃ 1988.8.27
中林 基

お知らせ

なかじま診療所・啓友クリニック
盆休(外来)

8月14・15・16日

ふれあい地蔵盆

8月22日(木曜日)

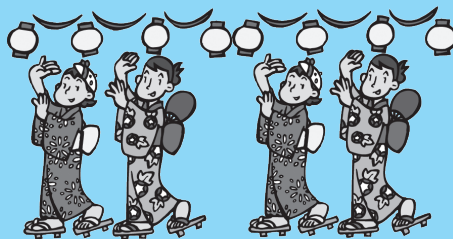
めぐみの家

在宅ケアを支える診療所・市民
全国ネットワーク全国集いin
新潟
9月22・23日(新潟市) 朱鷺メ
ッセ



春の摂津峡お花見
での舞リハビリの
みなさんの演舞

めぐみの家地蔵盆 8月22日



暑い夏の出会いと別れ

医師 中嶋啓子

■みーんみーんとせみの協奏曲の中に私たちは昨年と同じようにCIEE国際ボラティアとの出会いがあった。ロシアからナターシャ、韓国からアヨン、リーダー兼通訳の岡村君の3人を迎え2週間ともに過ごしました。最初の1週間は京都洛西けいゆうの里、後半1週間は大阪高槻で過ごしていただきました。京都では祇園祭、大阪ではUSJも楽しんでいただきました。

■そもそもCIEEとは、1947年ニューヨーク州法に基づく非営利法人で大学、高等教育機関をメンバーに持ち、国際交流事業を60年間やってこられました。このプロジェクトは第1次世界大戦直後、戦争の爪痕が残っているフランスで国籍を問わない参加者たちが、大戦で破壊された道路や農地を力を合わせて補修修復する作業を通し互いに理解を深めあうという世界平和への貢献を目的に生まれ、今日まで拡大してきたそうです。環境保護、文化遺産の保存、家屋の修復、福祉活動が行われています。私たちは医療機関であり福祉機関ですが、汗だくになって彼らと国際交流いたしました。ロシア

の彼女はロシア料理を披露してくれました。いい思い出が残りました。本当にありがとう。

この夏、いい出会いと同時に、忘れられない別れがありました。おひとりおひとりと思うと語りつくせないほど重い歴史を感じるのですが、紙面を借りてお別れのご挨拶をしたいと思います。

■90歳を前に亡くなられたS氏は、労災で頸椎損傷になられ26年もの間いわゆる寝たきり闘病されました。私たちは結構早くから往診させてもらっていました。早くから天井走行のリフトがついており弱い奥様が一人でも移動できるようにされておられ私たち医療者は前向きな彼の生き方に多くの事を学びました。不自由な手で将棋をすることも訪問リハで頭と手と心の体操となりました。又介護の下手な我々は患者さんの気持ちも考えずこちらのペースでリハをしているとすっかり怒られ、出入り差し止めにもなったことがあります。何がまちがいか私たちは考えました。患者家族の気持を考え病院の様な傲慢で押し付けのリード的なりハビリや医療はできない事を学びまし

た。S氏本当に長いことありがとうございました。

■もう一人は囲む会2代目会長をされたI氏を見送りました、小規模多機能ホーム・ゆくらりを利用され食べられなくなられてきた時「いらん」と言って拒否され、時には職員に手が出て格闘するよう食事介助でしたが、痩せが著明となり家族とのカンファレンスで「自然に老いる、胃腸等経管栄養はせずに与えられた寿命を全うする事確認して最後まで共にがんばりました。囲む会会長をされた尊厳を最後まで守れたかどうか我々職員に問われることは多くあると思いますが、誰にも本をいつも読むように本を差し出し、ポケットから常に飴が出てきた事を思い出します。戦争の話、鉾山の話、大きな声で歌を歌われる御姿忘れません。本当にありがとうございました。

■7月突然別れがきました。K女史に我々が出会ったときはすでに難病中の難病ALS（筋委縮性側索硬化症）を宣告され、車いすに座られ歩けなくなっておられました。しかし、凛とした御姿、大きなお目の中にはつきりしたご自身の意志をお持ちであることを感じ、私たちは患者さんについていく覚悟で、ともに闘病する事を確認しました。追っかけ

るように球麻痺となられ、在宅人工呼吸器をつけられ、胃瘻となりました。しかし食は命、口から味わうことは生きる意欲であると喉頭食道分離術で、最後まで口で味わうことを試みました。ヘルパーさんの何食かぶんの嗜好、味にこだわりの流動食づくりは涙なくして語れません。1人以上の吸引器片手の食介助、多くのヘルパーさんがかわり続けてくれました。病院専門医、かかりつけの訪問医師、訪問看護師、保健所、訪問ヘルパー、介護タクシー、全身全霊で関わりました、しかし我々介護者の苦労はご家族（御主人娘さん）の御苦勞には勝てません。この熱き闘病は暑い夏終止符を打ちました。悲しいというより悔しい、彼女のエールにこたえきれなかった我々介護者たちの無念の思いを次の患者さんへ送ります。絵手紙の数々はK女史の生き方そのものを表していると思います。美しく単刀直入で凛とした聡明さ強さを持ったKさん本当にありがとう、お礼を言っても言い足りないくらいです。

— 全ての出会い別れに感謝、SEE YOU —



ふれあい教室作品展示会

一年間に作成した作品に感動

介護福祉士 猪岡孝洋

平成25年度作品展示会を担当させて頂いた職員の猪岡孝洋です。今回は2月18日（月）から2月23日（土）の期間に開催させて頂きました。今年のテーマは出展して頂く利用者様の輝いた作品を展示して頂くようテーマを「金」にしました。展示では今年も1年間頑張って作成した作品を沢山展示して頂き、沢山の方に見に来て頂き今年も無事に終える事が出来ました。また来年も沢山の作品出展をお待ちしております。



洛西けいゆうの里だより

「介護老人保健施設とは」

—— 老健を深く理解し、利用して頂くために ——

事務長 百々道男 (どどみちお)

平素は当施設にご理解ご協力いただき誠にありがとうございます。介護老人保健施設（以下老健）を皆様により深く理解していただくために説明させていただきます。

【老健と特養の違い】

老健は、正式名称は介護老人保健施設、高齢者の自立支援を目指し、在宅への復帰を目指すために、日常的な医療行為や看護・介護のケアはもとより、リハビリテーションや身近なお世話を提供する施設です。

特養は、正式名称は介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）、医療行為がなく、生活の場・終の棲家としての位置づけのある施設です。

【老健と病院の違い】

病院は、疾病や疾患を治療するところです。

老健は、病院を退院しても日常的な医療を必要とし、在宅に戻れない場合に在宅に復帰することを目的に入所するところです。つまり、老健は利用者様が住み慣れた地域でその人らしく生活できるように支援する場所ということです。

（当施設では、高齢者に適した最善の医療を行うよう努力をしています）

【老健での生活は 在宅生活と同じが基本】

毎日の生活が活き活きとしたもの

であるために、老健では1日のリズムを大切にし、起床・整容・食堂での食事、トイレでの排泄を促します。食事も含めて一日中過ごす場所が「ベッド」ではありません。在宅復帰を目指す施設だからこそ、利用者の方も「目標を持って動く」これが老健です。

【老健では寝たきりはNO】

老健では、様々な職種が利用者に応じた目標と支援計画を立て、日常生活動作能力の回復訓練や離床期や歩行期にリハビリテーションを提供し、身の回りのことができるように援助します。そのほかに幅広い教養・趣味生活で明るく楽しい生活を提供し、できる限りの支援をサポートすることを基本としております。老健は身体拘束をしない取組みを含め、寝たきりにしない施設です。

【老健での看取り】

超高齢で最新の医療処置の適応にならない方の看取りも行う施設です。これまでは死亡直前になると病院に転院となることも少なくありませんでしたが、利用者様・家族様の希望があれば可能な限り老健で看取りの対応を致します。

これは全国老人保健施設協会発行の冊子の中から抜粋させていただきました。老健役割は、大まかに理解していただけたと思います。我々スタッフも



〈洛西けいゆうの里〉

理念 心のよりそった介護と
あたたかな笑顔

- 施設入所サービス 82名定員
- 短期入所サービス
- 通所リハビリサービス 40名定員
- 居宅介護支援（ケアマネ）事業

電話 075-333-5290
〒610-1111

京都市西京区大枝東長町1-36

皆様と一丸となって上記のことを実践していきたいと思っております。ご理解ご協力の程よろしく願います。



洛西けいゆうの里13周年記念講演

黒岩恭子先生の

「食べられるための口づくり」

～食べる機能を回復する口腔ケア～

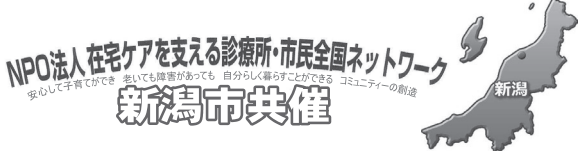
食事の提供の工夫を学ぶ

管理栄養士 原田 亜紀

黒岩先生の開発されたモアブラシやくるりーなブラシを何種類も実際手に取り見せて頂きました。講演で衝撃を受けたのはモアブラシで口腔ケアを行うと、喉の奥から黒い帯状の痰とそれにからまった薬などが取れたという映像でした。口腔内をモアブラシやくるりーなブラシでケアを行うだけでなく、咽頭のあたりの痰も除去することができるのだとびっくりしました。

食事介助や口腔ケアをしていると、高齢の方は口腔のいろいろな問題を抱えている方が多く、義歯の不具合、口腔内の乾燥、飲み込みにくい方等々・・・少しでも口から食べて頂けるように、口腔体操、マッサージ、口腔ケアにより「食べられる口づくり」の大切さを再確認しました。また、管理栄養士として、病状にあった食事の提供だけでなく、その方の口腔の状態にあった食事の提供も大切であると実感しました。

今年も「在宅ケアを支える診療所市民全国ネットワーク」全国の集い（新潟市）に発表&研修に参加します。医療法人啓友会からは5名の職員が実践報告の予定です。（報告は次号にて）



第19回全国の集い in 新潟2013

雪割草！ みんなのケアで咲かせよう

地域包括ケアのある ちら・まちをめざして

日時 9月22日(日)・23日(月・祝) 場所 朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター

大会長 黒岩 卓夫 浦佐萌気園診療所 院長
副大会長 上村 伯人 上村医院 院長
斎藤 忠雄 斎藤内科クリニック 院長
吉嶺 文俊 新潟大学大学院 医学総合研究科
小山 剛 こがし園
実行委員長 福田 喜一 潟東クリニック
副実行委員長 五十嵐謙一 五十嵐風院

大会事務局
〒949-7302
新潟県南魚沼市浦佐330-5 萌気園浦佐診療所
TEL 025-788-0880 FAX 025-777-5866
E-mail zaitakunet2013@mozien.jp
事務局長 山本満智子
大会HP <http://homecare-niigata2013.geo.jp/>

NPO法人在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク 第19回全国の集いin新潟2013
朱鷺の舞う新潟で、皆さまのお越しを心からお待ちしております

第1日目【9月22日(日)】基調シンポジウム/実践交流会

- 地域包括ケアのあるちら・まちを目指して
をテーマに基調講演・基調シンポジウムを予定。
(ケアと政策の二本で一本のシンポジウムを予定しております。)
- 在宅医療に取り組む多くの仲間たちと実践報告をしよう
交流会では厳選した10の CATEGORY を予定。
(在宅医療での取り組みを全国の仲間たちと共有し合う年に一度の発表の場です。)
- 一言！ 何が言いたい！ 提案したい！
仲間とじっくり話し合いたい方大集合！！
(ポスター&テーブルディスカッション、そしてケア・カフェの同時開催予定です。)

懇親会【ホテル日航新潟】18:00～(予定)

2日間の主なゲストの皆さま



大橋 謙策氏
日本社会事業大学大学院
特任教授
日本地域福祉研究所 理事長



石飛 幸三氏
「年配者のための」著者



上野 千鶴子氏
NPO法人
ウイメンズアクション
ネットワーク理事長



太島 伸一氏
国立長寿医療研究センター
院長



唐澤 剛氏
厚生労働省 政策統括官



服部 万里子氏
日本ケアマネジメント学会
副理事長



青木 新門氏
新潟県立病院
「高齢者のための」著者



小山 剛氏
第19回
全国の集いin新潟2013
副大会長



黒岩 卓夫氏
第19回
全国の集いin新潟2013
大会長



河田 洋子氏
ちらの実業家の会
本部ケア協議会
地域ケア協議会
代表理事

第2日目【9月23日(月)】(各講演会/シンポジウム/大会企画/理事会企画等)

●大会2日目は全プログラム市民公開講座です。
中味を深めるのは全国の皆さんです!!

- 看取り
- 認知症の人の自決のために
- 介護予防を考える
- 在宅生活継続におけるケアマネジメント
- 地域の茶の間の大交流会
- 災害と在宅ケア
- 住居と共に育てる多職種連携
- 都市型在宅医療について
- 社会モデルのアウトリーチ
- 地域を拓く介護の現場
- 「組織」が看護・介護で求められている
- 在宅医療連携拠点事業を今後の在宅医療の充実にどうつなげるか?
- 「ケア」を受ける立場から、「自立」への道を考える
- 退院から終末期まで、人生の様々なステージにおけるヘルスケアの役割
- 多職種による在宅患者のバイタルチェックとその情報共有
- 延命・昏るうについて考える
- 地域包括ケアについて、いかに病院と連携していくか
- 仏教ホスピスサービスと日本のケアについて
- 新潟水俣事件へのちと生活を支える 在宅ケアの立場から考える
- 全国に先駆けて始動した新潟の在宅介護活動を検証する
- 未来を拓く介護の現場
- 地域を再生・共創する
- 看護職の役割としてそれぞれの看護領域のシームレスな連携を目指して

新潟市共催!

ご報告！ ふれあいおひな祭会

今年も恒例のお雛祭りを〈のびてゆく幼稚園〉の園児さん87名と一緒に行いました。園児さんとの歌や手遊びゲーム、ケストのパantomマイムショーの面白い動きに皆さんがくれた素敵な笑顔がとても印象的でした♪♪
昼食は、“桜ちらし弁当”少し先取りの春の香りを皆で共感出来ましたね。

午後からは皆でおひなさま作り。貝殻をイメージした、開けたらお雛様が出てくるちょっと変わったお雛様でしたけど、皆さん上手にできましたね。

日本の古くからの受け継がれている伝統のお雛祭りを若い子供たちと一緒に祝えたことは言葉では言い尽くせないほど貴重な一日だったと思います。



ちなみに来年は園児さんが100名以上参加して下さる予定です。園児さんに負けないように皆様も元気に過ごして来年のお雛祭りに参加して下さいね。

おひな祭会担当：長谷川 勝弘



熱中症にご注意を！

人が1日に体外に排出する水分の量は、主に尿や便として約1300ml、皮膚や呼吸を通して水分が失われているだけでも約1000ml。(汗をかいた場合に水分が失われる量は含まれていません。なので、汗をかいた場合はもっとたくさんの水分が失われます)運動などにより汗をかかない場合でも、少なくとも合計約2300mlもの水分が知らず知らずのうちに体の外に出ているのです。なので、その分と同じだけの量の水分を、食べ物や飲み物から補う必要があります。

平均的な食事では約600ml、食べ物を分解してエネルギーを得る際にさらに約200mlの水分を摂取することができます。

従って、残りの約1500mlは、飲料水から摂取しなければなりません。

そうすれば、失われた体内の水分が補えることとなり、体の中の水分バランスが整うのです。

もちろん、汗をかいた時には水分と塩分が排出されるので、その分の水分と塩分を補うように心がけてくださいね。



追悼 入江 勝さん

享年92歳（平成25年5月23日没）

山口県下関市出身 東城山町

主義 「人に親切にすること」

「何でも積極的にやること」

「笑顔を常に保つこと」

「生死について心配しないこと」

NPO 囲む会ヘリオの礎を築いた
入江勝さんを偲ぶ

専務 中嶋 久 矩

入江勝さんは、大正10年に山口県下関市に生まれ、鉾山技師として35年間石原産業に勤められました。私との出会いは、癌になられた奥様を、お家で療養され看取られる日々の頃でした。

その後、医療と健康囲む会に入会され、ふれあい教室のボランティアに参加。会員同士が本音で語り合う場を、二度と戦争がないように願う自由な会でありたいと「ふうせんクラブ」と命名し活動されました。更に平成5年から10年まで会長を歴任し、今日のNPO 囲む会ヘリオフレンドの礎を築かれました。平成11年には、めぐみの家・啓友クリニック建設にあたり「建設支援委員会」代表として建設協力支援金1億余円を支えて頂きました。

それからは、老いて弱られながらも、住み慣れた地域で最後まで生活したいと様々な活動や出会いを重ね、張りのある声でユーモアを交えた話しを幾度も聞いたことを懐かしく思い出します。

最後は、共に竣工を喜び合いました「小規模多機能ホームゆくらり・なかまへリオハウス」で過ごされ、御家族に見守られて旅立たれました。入江勝さんの別れの言葉です。「皆さん色々ありますが、私は出来る限りのことはしました」

入江勝さんのご厚情に深く感謝し心からご冥福をお祈り致します

医療と健康囲む会元会長

東城山 古本 喜子

入江さん、そちらの世界はいかがですか：。もうご自分の居場所は確保なさったのでしょうか。発明協会で主軸を担い、「医療と健康囲む会」でも会長を務められ、鉾山を降りリタイヤ後も色々と活躍されました。我が人生に悔いなし、の人生に幕を閉じられたのではと尊敬いたします。

今でも私の目に浮かぶ入江さんほど出会っても「よう！元気かい！」と右手を少し上げてニコニコなさっている姿。聞けなくなつて久しいのですが「どうだい、本がたくさんあるから貸すよ」と多くの方に声をかけてくださったダンディな姿。その声も聞くことができなくなつての旅立ちでした。

天寿を全うなさつた入江さん、皆に幸せを残して下さつたと思つています。私もあやかりたいです。

合掌

小規模多機能ホーム「ゆくらり」

管理者 辻 博司

鉾山技師として日本各地の鉾山を踏査された入江さん。足腰の達者ぶりは並ではありませんでした。すこし前まで、自宅から散歩して拾った石を掌に芥川沿いの遊歩道を風に吹かれて闊歩されている姿をよくお見かけしました。

最後の数年間は介護事業所「ゆくらり」をご利用されながらご自宅で過ごされてきました。お迎えにあがった際の誘い文句は「入江さんが来ないと本日の集まりが始まりません。どうぞよろしく願います」。元もと人の良い頼まれたら嫌とは言えない方なので、「ほーか、じゃしようがないな」と迎えるの車に乗りこんでいただけだったので。夕食後の送りの時も、すんなりと帰っていただくことは難しく、「送りませ」と言つても根が生えたように頑として動こうとされません。介護の職員も打つ手がなくなり最後はすがる風にして懇願しなくてはなりません。一呼吸おき場面を変えると、先ほどの拒否はどこへやら、すんなり立ち上がって車に乗り込んでくれるのでした。楽しいエピソードは上げればきりがありません。「医療と健康囲む会」の頃より、たいへんお世話になりました。ありがとうございます。



撰津峡

お花見会

観桜俳句選

選評 田中久子 先生

最優秀賞 上田八代子

桜咲く今人生の自由席

「桜咲く」明るい出だしに続く言葉が「今人生の自由席」とは何と幸せな境遇なのだろう。人生の山坂越えて今この自由席。素晴らしい御句です。

優秀賞 日比 實

花満開の桜まつりは

最高だ

単純明快、気持ちの良い句です。一読してよくわかりますね。今日の撰津峡の桜まつりの様子が上手に詠まれています。

中嶋啓子特別賞 入山かめの

送迎があるからいける

お花見も

聞けば関係者は昨夜から場所取り等このお花見を準備されていたとか：。スタッフの方やボランティアさんの心配りや奉仕の大きさを体感し、心に感じましたので、この句が出来あが

ったのだと思います。素直ないい御句です。

撰津峡賞 中嶋久矩

花に酔いこころふれあう

撰津峡

満開の花。開催日の設定も御苦心されたことでしょう。美味しいお花見弁当、味覚視覚全て満足です。中七の「こころふれあう」その通りのお花見会でありました。

桜花賞 藤岡きよ子

天晴れて 満開の下

幸を知る

今年は天候不順に加えて桜が早く咲き出したので花の咲き具合はどうかと心配していましたが、何と何とこの御句の通りに満開でした。それを受ける言葉に「幸を知る」と結ばれたのはお見事です。一句が上手につながりました。

山桜賞 加藤志貴子

亡き姉を偲びつめでる

さくらかな

桜には華やかさもありますが、しみじみとした面を持つ花でもあります。俳聖芭蕉にも「さまざまの思い出す桜かな」という句がありますが、今は亡き姉上のことを偲びながら桜を見

ていらつしやる作者がこの句より見えできますよ。

花より団子賞 藤原千鶴子

よかつたね ことしも

元気 はなみする

よかつた。よかつた。と私も作者に申し上げます。「花七日」という言葉は花のはかなさをいうのですが、人は皆人によって生かされています。いついつまでもお元気でお花見を楽しんで下さい。「よかつたね」の言葉を上五に置かれたのがよかつた。

春爛漫賞 東 貞男

青空に吸い込まれ舞う

花一ひら

青空に満開に咲き誇る花。今日は絶好のお花見日和。しかし作者は青空に舞う花片に目をとめそれを句にしたのです。「花一ひら」の瞬間を切り取り句にされたのは大したお手柄です。

一番賞 仲森ツタエ

啓蟄や 虫もたじろぐ

老人会

「啓蟄」とはすなわち冬ごもりの虫が這い出る意です。「虫もたじろぐ」とはすごい老人パワーですね。老人力を感じます。今年は3月5日が啓蟄でした。老人会万歳。

花咲賞 大串八重子

両わきに咲きみつ桜

坂の道

現実の「坂の道」と解してもいいし、年齢を重ねてきた今現在とも読み取れる、なかなか奥深い句であります。それが「両わきに咲きみつ桜」と詠じられたので花咲賞にふさわしいと思います。

花は満開、行楽びより、関係者の心配り、スタッフ・ボランティアさんの善意：。集う人々の笑顔がお花見会の成功を物語っていました。どの御句も、天恵に感応し、今日

の様子や心情をご自身の言葉で素直に叙していらつしやったのが良かったと思います。俳句は頭の体操であり、心の栄養です。これからも、どうぞ、折に触れて俳句を楽しんで下さい。

天恵を賜る啓友会花見

田中久子

選者略歴

府退職公務員連盟副会長

高槻市俳句連盟副会長

俳人協会会員

鹿火屋同人

四季吟詠句集

本町在住